

学校評価結果（令和3年度）

長池昭和第二幼稚園

I 自己評価

1. 本園の教育目標

発達に応じた楽しいあそびの中で、知・体・徳のバランスのとれた教育を展開し心身ともに元気で明るい、のびのびした子どもを育てることを目指す。

- ・心身ともに元気に明るい子どもを育てる。
- ・自ら進んで新しい発見をし、喜びを持ち工夫する子どもを育てる。
- ・自分や他人を大切にし、みんなと仲良く協力できる子どもを育てる。
- ・規則正しい生活ができ、自ら安全な行動のできる子どもを育てる。

2. 本年度の重点的に取り組む目標、計画

長期的な視点に立って子ども達の成長に寄り添った保育を行う。

新型コロナウイルスに対応した安全な保育や行事への取り組み方を考える

保育者としての資質の向上を図り質の高い保育の提供に努める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

保育内容	新型コロナウイルスの発生状況により都度保育計画の見直しに迫られたが、安全面に考慮しつつ出来得る限りの保育の提供に努めた。 また職員間でコミュニケーションを緊密に取り合いながら、それぞれの子ども達の成長段階に応じた保育を提供することが出来た。
安全面での取り組み	マスクの着用や消毒を徹底し、また空き教室を利用して食事の時間、園児間の距離を離すなど感染予防に努めた。 また新型コロナウイルスの発生状況を見極め、状況に応じた保育の在り方を考慮し保育を行った。
教育者としての資質の向上を図る	職員会議を通じてそれぞれの保育について評価し合いそれぞれの保育の改善に取り組んだ。 園内研修を行い保育の質の向上や保育者の資質の向上に努めた。

4. 学校自己評価の総合的な評価結果

長期的な視点に立って保育を行うことにより、一層子ども達の成長への理解を深めることが出来、ひとりひとりに寄り添った保育を行うことが出来た。新型コロナウイルスへの安全面での対応を十分に考慮し保育を行った結果、幼稚園内において大きな感染拡大はなかったが、例年通りのすべての行事を行うことは出来なかった。

5. 今後の課題

今年度も新型コロナウイルスの影響でその都度保育内容や行事の変更に迫られた。新型コロナウイルスへの対応の基準も変更される中、新しい保育や行事の在り方について常に考慮し模索していく必要がある。また少子化に拍車がかかり地域の子どもの数が減少する中、地域のニーズを見極め対応する必要がある。

II 学校関係者評価

幼稚園関係者の方々には主に行事を通して子ども達の様子、日頃の保育の成果を見て頂きました。

その結果、保育について適正に運営されているとともに、令和3年度の自己評価についても適正であると認められました。

今後も子どもたちに寄り添い、一人一人の成長に真摯に向き合い、向上して欲しいとのお声を頂きました。